

としま

まち

つながる地域づくり(つなまち)通信

生活支援コーディネーター通信

発行: 豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課

〒170-0013 豊島区東池袋 1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎 3階

電話 03-3981-4392 E-Mail csw_seikatsu@a.toshima.ne.jp



豊島区民社会福祉協議会
ふくみん

9月24日(火) 第2回 地域のささえあいの仕組みづくり協議会 を開催

高齢者等の生活支援体制整備に向けて、情報発信とベンチを置く活動をどのようにすすめていくか、具体的な話し合いをしました。

委員は、民生委員・児童委員や高齢者クラブ、商店会、金融機関、区民ひろば、銭湯組合、福祉専門学校、介護事業者などに所属する11名です。



取り組みやノウハウの共有ができるような発信を地域に向けてできればよい

協議会として情報発信をどのように行うか

受け手が受け取りやすい媒体が多様化している。紙媒体も必要で、広報としまなどはよい。としまテレビも高齢者がよくみる。全戸に行き渡るツールがあるとよい

地域の課題を解決することにつながるとよい

地域のささえあいの仕組みづくり協議会の委員が、地域や仕事で実践している事例を紹介し、地域で生かしてもらおう

商店会の事例: 街灯をLEDにして捻出したお金で、空き店舗を高齢者の集まりや会議に使っている

金融機関の事例: 窓口でのトラブル(認知症高齢者の通帳紛失等)の対応策を、公的機関と議論し解決策につなげた

銭湯の事例: 地域活性化のためのイベントや情報発信、障がい者施設への清掃依頼(就労の場の提供)等をしている



街にベンチを置く活動をどうすすめるか

街で植栽に座っている人、電柱につかまって休んでいる人をよく見かける。坂道も高齢者にはきつい

ベンチを置く目的をはっきりすることが大事。高齢者が自分の足で出かける、(例えば)500m歩くために必要であるということ。小学校圏域なら高齢者も出かけようと思う

ベンチを置く場所の提供・ベンチの制作・資金提供など、いろんな人や団体の協力で一緒にやるのがよい

日本福祉教育専門学校の授業で学生が街を歩いてベンチ調査をする案が出ている。学生と一緒に地域の高齢者にも歩いてもらうといい。学生も、要介護者でなく、元気な高齢者のことを理解するきっかけになる

区内全域でやるのではなく、まずはモデル地区でやってみるのがいい

「出かけたが」「出かけてほしい」ルートを考えて設置する

- ・病院周辺コース
- ・お買い物コース
- ・お花見コースなど



2グループに分かれて話し合ったあと、全体で内容を共有しました。街にベンチを置く活動を、地域の方々と共働するプロジェクトチームをつくり実施していくことを確認しました



ふくろうの杜高齢者総合相談センターの地区懇談会に参加しました

令和元年10月11日(金)

民生委員・児童委員、ケアマネジャーを中心に、区民ひろば(高田・南池袋・目白)などの「場」の関係者、関係機関などが集まり、情報交換、意見交換の場をもちました。

区民ひろば事業の紹介や、高田介護予防センターのとしまる体操の話、地域密着型の多目的スペース「ほっこりぷらす」などの紹介がありました。

【高齢者が集っている場/集うアイデアについて意見交換】

- ・町会会館、コンビニのイトインコーナー、接骨院などに集まっている。
- ・遠くまで行けない高齢者が集える場が身近にあるとよい
- ・区民ひろばでは、様々な事業・子どもとの交流もやっていることがわかった

民生委員、ケアマネ等の皆さんが地域情報を交換し、この地域にたくさん「場」があることを実感できました。今後の連携につながる会だと感じました

ベンチ情報を募集中

「地域のおもしろいベンチ」や「助かるベンチ」などベンチ情報を募集します。紙面1面の連絡先にお知らせください!